



グリフィンズ8戦目は、関西大学KAISERS



Championships Quarterfinal 2025年11月22日(土)K.O14:00 天候:晴 場所:富士通スタジアム川崎

チーム名	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
関西大学 KAISERS	21	6	8	7	42
明治大学 GRIFFINS	6	15	0	7	28

1Q
 明治大学はキックオフから奇襲を仕掛け、KCチームがオンサイドキックを成功させます。流れに乗った明治は、オフェンスの1プレー目でスペシャルプレーを繰り出す。#15新楽から#19五十嵐のロングパスが通りタッチダウン。試合開始早々、明治は機先を制することとなります。しかし関西大学もテンポのいいパスで敵陣へと攻め込みます。最後は広く開いた外にランを展開され、タッチダウンを取られてしまいます。その後のオフェンスでは惜しい場面はあるものの、反則や相手のファインプレーに阻まれ上手く進めません。また、ディフェンスも鋭いパスにアジャストできず21点を計上してしまいます。

2Q
 続く第2クォーター、明治オフェンスは、#21高橋のランを警戒しフロントに人数を割いている関西大学に対し、ショートパスと外のランで着実にゲインを獲得する。敵陣残り30ヤードほどでOZフェイクのパス、#15新楽から#19五十嵐へのパスが成功しタッチダウン。その後のトライフォーポイントで#21高橋から#89金子へのパスが通り、2ポイントコンバージョンに成功する。しかしその直後、関西大学にキックリターンタッチダウンを許してしまう。#93古本がトライフォーポイントのキックブロックに成功し、粘りを見せる。次のオフェンスでは、#21高橋のランで自陣へと迫り、最後は#15新楽から#89金子へパスが通りタッチダウン。その後のディフェンスも3プレーでシャットダウンし、前半を27-21で終えます。



3Q

後半の入りのオフェンスでは、#21高橋のランを軸に攻め上げるも、関大ディフェンスのいくつもの好プレーに阻まれ、思うようなオフェンスができません。その後のディフェンスでも、#7天野のサックなど粘りを見せますが鋭いパスに対応することができず、タッチダウンを許してしまいます。また、2ポイントコンバージョンを成功させられ点差は開きます。無得点のまま3Qを終了する苦しい結果となります。

4Q

関西大学のパス攻勢にどうしても対応できないまま、自陣1ヤードまで攻め込まれる。そのまま押し切られタッチダウンを許してしまう。

オフェンスでは#15新楽の決死のスクランブルで2回フレッシュを獲得し、立て続けに#15新楽から#11後藤珠・#18杉崎へパスが通り、一気にゲインを獲得していく。相手の好プレーに阻まれる形で迎えた4th down ギャンブルで#89金子が25ヤードのロングキャッチを魅せる。この勢いに乗り、ディフェンスも関大のランをフロントが押し上げ、シャットダウン。ロスタックルも飛び出しオフェンスに託します。が、一歩及ばず関大のニーダウンで試合終了。今年のグリフィンズの挑戦はここで終幕しました。



◆4年間を振り返って

シーズンを終えた4年生の幹部・櫻井監督にインタビューを行いました。

◆インタビュー 主将・高橋



◆インタビュー 副将・館



◆インタビュー 副将・五十嵐



Q.同期・後輩・親にメッセージをお願いします

A. 四年間、支えてくれた親、苦しい時でも一緒に戦ってくれた同期、そして未来のチームを託す後輩たち、本当にありがとう。
家族や周りの方々のサポートがあったから最後まで走り抜くことができました。
同期とは互いに背中を押し合いながらここまで来られた。後輩たちには、このチームをさらに強くして必ず日本一をつかみに行ってほしい。
本当に4年間ありがとうございました。そしてこれからもずっと応援し続けます。

Q.同期・後輩・親にメッセージをお願いします

A. 2025年度副将を務めさせていただきました館虎之介です。

1年間ありがとうございました。
今年は朝練からはじまり色々な変化があり、多くの負担をかけてしまいました。
それにも関わらず、ついてきてくれ、支えてくれた同期・後輩・父母の方々に大変感謝しております。
これからもGriffinsをよろしくお願いします。

Q.同期・後輩・親にメッセージをお願いします

日本一という目標に対して共に挑み、支えてくれた後輩、同期、父母の方々には感謝しかありません。本当にありがとうございました。



◆4年間を振り返って

シーズンを終えた4年生の幹部・櫻井監督にインタビューを行いました。

◆インタビュー 主務・長島



Q.同期・後輩・親にメッセージをお願いします

A. 2025年度主務を務めました、マネージャーの長島瑞記です。女性主務という前例のないスタートではありましたが、1年間、皆さまの支えのおかげで無事に役目を終えることができました。櫻井監督をはじめとするコーチ陣、父母会の皆さま、そして部員の皆には心より感謝申し上げます。4年間、本当にありがとうございました！

◆インタビュー 副務・山口



Q.同期・後輩・親にメッセージをお願いします

A. 1年間ありがとうございました



◆4年間を振り返って

シーズンを終えた4年生の幹部・櫻井監督にインタビューを行いました。



◆インタビュー 櫻井監督

Q1 「今年の四年生はどのような代であったか」

今年の四年生は、主将・高橋、主務・長島を中心に、30名の四年生が117名の部員をまとめ上げ、「ONE TEAM」のスローガンのもと、困難な局面でも揺るがない結束力を示してくれた代でした。その姿勢は確かな成果へと繋がり、2018年シーズン以来となる関東1部TOP8第2位、そして現方式で初となる全日本大学選手権出場権を、自らの力で掴み取ってくれました。

目指すべき場所はまだまださらに上にあります。しかし今年のチームは、秋シーズンにおいて、甲子園ボウルへ出場した1985年以来となる関西勢との戦いを経験し、GRIFFINSの歴史に新たな1ページを刻んでくれました。

こうした成果は、四年生がフットボールに真摯に向き合い、競技力の追求はもちろん、学修面や生活面での自律も怠らず、大学スポーツとしてあるべき姿を貫き続けてくれたからこそ得られたものだと考えています。

今年の四年生が築いた取り組みは、チームの確かな財産です。

その価値を次の代へ引き継ぎ、さらに強く、勝つスポーツ組織にしていきたいと考えています。

Q2 「監督としてチームをマネジメントする上で、今年1番苦労したこと」

単に競技力向上や勝利を追求するだけでなく、大学の考えに即し、時代に適合したチーム運営と組織の成熟を図ることが、今年最も苦労し、同時に大きなチャレンジでした。

学生スポーツに求められる役割が変化する中で、大学としても、学業と競技活動の両立、コンプライアンス・ガバナンスの確保、そして人格形成を伴う教育的効果を重視する意識は高まり続けています。私はその方向性を受け止め、学生として、そして体育会の一員としてあるべき姿を共有できるよう取り組んできました。

今年は、ご父母の皆様のご理解をいただき、学業とフットボールの両立を目的に練習時間を朝へ移行しました。

これは、時代に即した学生スポーツの在り方を実現する改革であり、競技力向上と同時に、大学の考えに沿ったガバナンス強化と、学生アスリートとしての成長に繋がる取り組みだと考えています。

その中で、学生たちは自ら考え、行動し、学修面・生活面での自律と競技力の向上を両立させようと努力してくれました。

シーズンでの戦いぶりは、その積み重ねの成果であると感じています。

Q3 「次の代に向けた意気込み」

今年のチームが残してくれた結果に満足することなく、来季も“挑戦者・チャレンジャー”として精進していきます。

そのために追求すべきは、1プレー、1球、1ヤード、1秒、1点の質。スタートからフィニッシュまで、積み重ねるすべての瞬間にこだわり抜くことこそが、明治大学GRIFFINSの基準であり、これからも求め続ける姿勢であると考えています。

今年のチームを土台に、日常の姿勢や習慣、学修と競技の両立という大学スポーツの責任を一つひとつ遂行し、結果の責任を他者ではなく自分に置く“自責”の精神を忘れず、挑戦者として更なる成長と変化を遂げていきます。

全員が一つひとつの細かなことへ真摯に向き合い、積み重ねることで、GRIFFINSは必ず結果でその価値を証明できると信じています。

来季も、変わらぬご理解とご声援を賜れますと幸いです。



編集後記

仕事との掛持ちで作業が遅れ、タイムリーにグリフィンズ便りが出せなかったことも多かった中、関係者の皆様、またインタビューへのご協力、応援くださった皆様、本当にありがとうございました。4年間、本当に心に残る感動をたくさんありがとうございました。Griffins便りを読んでもらった皆様、本当にありがとうございました。これからもGriffinsの活躍を楽しみに応援しています！

4年 # 93 古本 (母)